

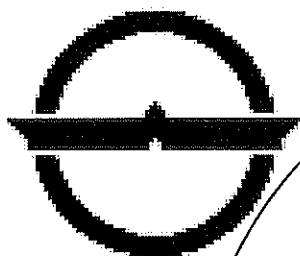
I . 総 括

1 構成市町村章

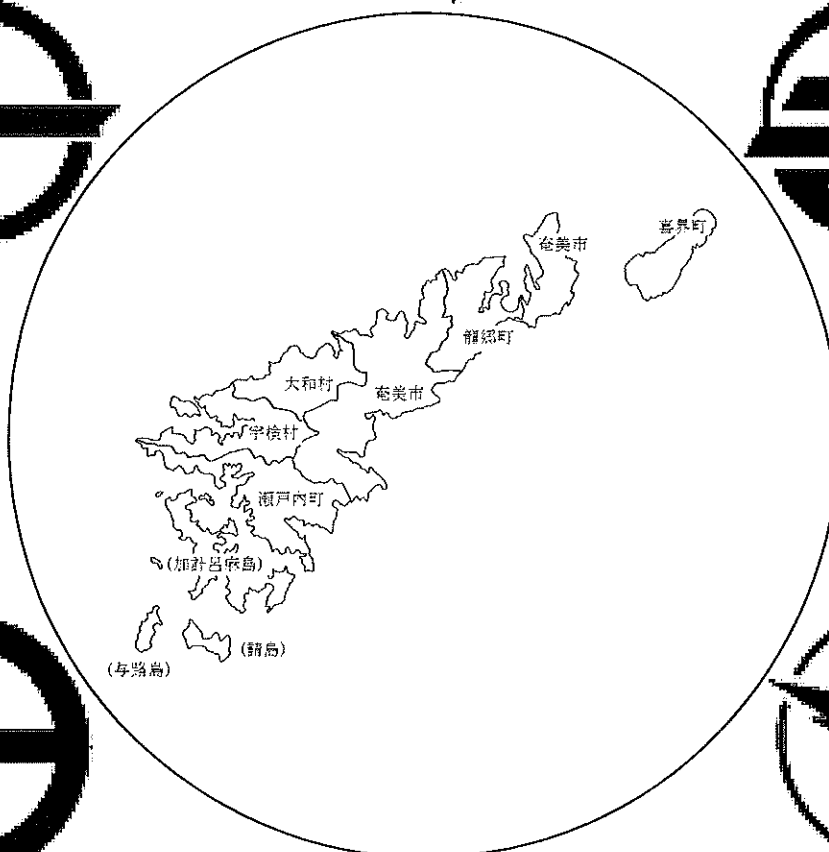
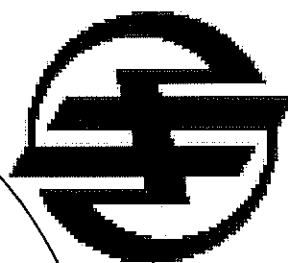
奄 美 市



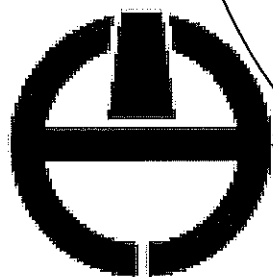
大 和 村



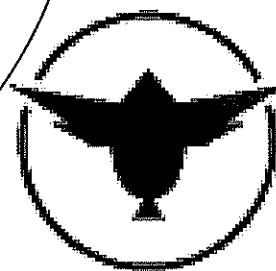
喜界町



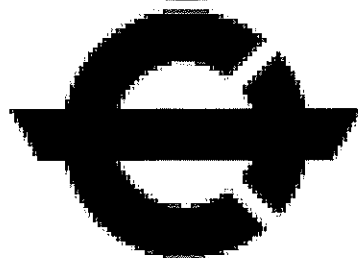
宇 検 村



龍 郷 町



瀬戸内町



2 位置・地勢

大島地区消防組合消防本部は、県都鹿児島市から南へ海路 383km の地点である奄美群島の中核都市奄美市名瀬に位置し、大島本島（奄美大島、加計呂麻島、請島及び与路島）と喜界島の 1 市（奄美市）3 町（瀬戸内町、龍郷町、喜界町）2 村（宇検村、大和村）の 6 市町村から構成されている。

大島本島は、古成層の堅硬な岩石によってその大部分が構成されており、全島の 85.5%である 69,420ha は森林及び原野に覆われ、耕地面積はわずかに 2,246ha で全面積の 2.8%にすぎない。

山岳中の最高峰は湯湾岳（694m）で島の中央からやや西部に偏して屹立しており、油井岳、松長山及び鳥ヶ峰岳等の 400m以上の山岳を輩下に本島の脊柱部を構成している。

河川は、東海岸の住用湾に注いでいる住用川（17km）及び役勝川（15km）のほか川内川、大川、河内川などがあり、そのほとんどは流路延長の短い急流河川である。

海岸線は、概して良湾良港に恵まれており、なかでも名瀬港は群島唯一の重要港湾で、貨客船の出入が頻繁であり、10,000 トン級の岸壁 2 バースが整備されている。また、瀬戸内町の古仁屋漁港は 5,000 トン級の船舶が接岸可能となり、第 4 種漁港として、南方漁業開拓の拠点となっている。このほか本島周辺海域で操業する漁船の拠点基地及び避難港として大熊漁港が整備されている。

空路は本島最北端に位置する奄美市笠利町に奄美空港（第 3 種空港）が昭和 63 年 7 月 10 日開港し、大阪－奄美及び東京－奄美間等をジェット機などで結んでいるほか、鹿児島－奄美、福岡－奄美、鹿児島－喜界島間に直行便（ボンバル機）が就航し、また、群島内の各空港との間をサーブ機が就航している。

産業としては、さとうきびを主体とした農業と大島紬が主なものであり、特産物としては大島紬、果樹及び黒糖焼酎等がある。また、瀬戸内町、宇検村では真珠、クロマグロ等の魚類の養殖が行われている。

特殊な動物として、猛毒で知られているハブと天然記念物として保護されているアマミノクロウサギ、ルリカケス及びアカヒゲが生息し、また、奄美市住用町及び宇検村の河川には、環境庁の絶滅危惧種に指定されているリュウキュウアユが生息しており保護が進められている。

喜界島は、大島本島の東側に位置し、名瀬港から同島の湾港まで海路約 69km の地点にあり、珊瑚が隆起してできた島で山岳はなく、中部東側に位置する高さ 220mの百之台という丘があるのみで、比較的平坦地が多く耕地面積は 1,910ha で島の面積の 34.3%を占め、耕地に恵まれているため農業が盛んで、さとうきび栽培と畜産の複合経営が営まれている。

令和 3 年 7 月 26 日の世界遺産委員会において、世界的に貴重な固有種や絶滅危惧種が数多く生息しており、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性保全上重要な地域であるとして「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産として登録された。これは日本では 5 番目の登録、鹿児島県では屋久島につぎ 2 番目の登録となる。

※ 平成 18 年 3 月 20 日に、市町村合併（名瀬市、笠利町、住用村）に伴い、奄美市が誕生し、構成市町村が 8 市町村から 6 市町村に変更になっている。

3 面積、人口及び世帯数

市町村別 区分	奄美市	瀬戸内町	喜界町	龍郷町	宇検村	大和村	合 計
面 積 (km ²)	308.34	239.65	56.82	81.82	103.07	88.26	877.96
令和7年10月 国勢調査世帯数	19,088	3,984	3,088	2,607	800	656	30,223
令和7年10月 国勢調査人口	38,416	7,652	5,997	5,683	1,550	1,290	60,588

※ 面積は国土地理院【令和7年 全国都道府県市町村別面積調】令和7年4月1日現在を計上

※ 世帯数及び人口は令和7年、国勢調査を計上

市町村別 区分	奄美市	瀬戸内町	喜界町	龍郷町	宇検村	大和村	合 計
令和7年4月1日 世 帯 数	18,949	4,011	3,108	2,613	720	656	30,057
令和7年4月1日 人 口	38,112	7,658	5,965	5,668	1,492	1,298	60,193

※ 鹿児島県公表 令和7年4月1日現在推計人口及び人口動態（市町村別）より計上

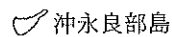
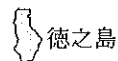
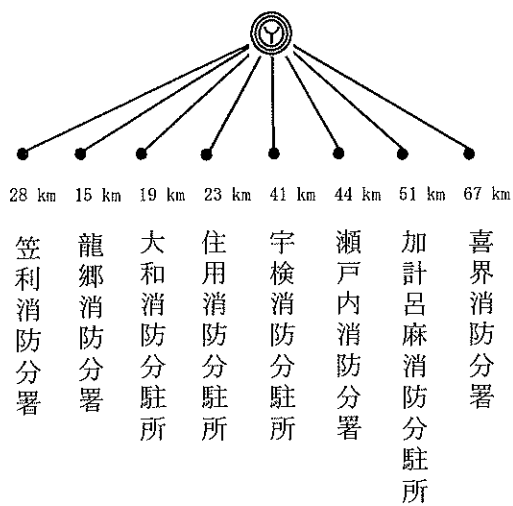
4 組合の管内図

凡 例

空 港 
ヘリポート 



消防本部からの距離



5 組合設立の経緯

- 昭和55年 5月 大島郡助役会で広域消防について発議。愛知県越智郡島部消防事務組合視察。
- 昭和56年 8月 大島本島 6 町村長、議長、総務課長合同会議で大島本島広域消防化について合意が成立し、代表（浜田龍郷町長）が名瀬市長に協力を要請。
- 昭和58年 4月 沖永良部与論地区消防組合発足。
1 本部、1 署、1 分遣所、28 名。
- 昭和59年 4月 徳之島地区消防組合発足。
1 本部、1 署、2 分遣所、49 名。
- 昭和60年 3月 奄美群島広域市町村圏協議会の後期基本計画の中に大島本島、喜界島地区の広域消防化の実現促進が盛り込まれる。
- 昭和60年 4月 大島本島、喜界島 4 町 3 村首長、議長、合同会を開き、同地区の広域消防化を図る事とし、名瀬市長に協力方を要請することに決した。
- 昭和60年 7月 広域消防関係協議会開催。（8 市町村消防主管課長）
- 昭和61年 7月 名瀬市議会総務委員会一行、広域消防先進地視察。
- 昭和61年10月 広域消防関係協議会開催。
大島地区消防組合設立準備委員会設置（委員長 菊田龍郷町長）。財団法人消防科学総合センターに消防力の最適配置システム調査委託決定。
- 昭和63年 1月 財団法人消防科学総合センターより「大島地区広域常備消防化における効果に関する調査報告書」受理。
- 昭和63年 9月 「消防体制の常備化に係る政令指定を希望する調査表」提出。
- 昭和63年11月 名瀬市広域消防プロジェクトチーム設置。
- 昭和63年12月 名瀬市議会全員協議会で基本構想、規約、覚書等説明。
- 平成元年 1月 大島地区消防組合設立について議決。
名瀬市議会、喜界町議会、大和村議会、笠利町議会。
- 平成元年 2月 大島地区消防組合設立について議決。
瀬戸内町議会、宇検村議会、住用村議会、龍郷町議会。
- 平成元年 3月 大島地区消防組合議員選出（各市町村の議会）。
大島地区消防組合設立許可申請を県に提出。
- 平成元年 4月 大島地区消防組合設立について知事の許可を受ける。
1 日 指令地第 1 号（県知事許可）
3 日 自治省告示第 74 号政令指定（効力 平成元年 4 月 1 日）

6 常備消防の沿革

年 月 日	事 項
昭和30. 10. 14	名瀬市栄町大火 118棟 5,056㎡が焼失 死者1名、負傷者11名
12. 3	名瀬市入舟町大火 1,365棟 624,097㎡が焼失 死者・負傷者なし
31. 6. 1	名瀬市消防本部設置（常備消防のはじまり） 3係 職員16名 条例定数17名（吏員3、その他14） 水槽付消防車1台配置 消防長事務取扱 有村 武義（市助役）就任
32. 2. 1	消防長 林 哲雄 就任（非常勤、消防団長兼任）
2. 25	消防本部庁舎落成式（仮屋町23班）移転
7. 15	望楼竣工（地上高20.7m）
8. 8	上水道新設、付設消火栓52基、以降増設
10. 21	ジープ級消防車1台配置（トヨタ・日本造機）
33. 4. 1	条例定数改正17名（吏員13、その他4）
6. 1	消防職員3名増（19人）
7. 1	消防長 川畑 吉之助 就任（消防団長兼任）
12. 27	瀬戸内町古仁屋大火 1,628棟 66,314㎡が焼失 林野600haが焼失 負傷者48名
34. 11. 30	消防法改正に伴い、危険物事務を県知事へ引継
12. 13	電話共電式となり火災専用電話（火事番）配置
12. 25	ジープ級消防車1台配置（日産、市原）（水槽付消防車団配置替）
35. 7. 1	消防職員2名増（21名）
8. 1	名瀬市消防署設置 2分隊 署員は本部職員の兼務、署長は消防長兼務 署併設により、危険物事務を県知事より引継
36. 10. 30	第1回 防火管理者講習会開催、以降毎年開催
37. 4. 1	条例定数改正21名（吏員20、その他1）
38. 3. 29	ジープ級消防車1台配備（日産・森田）（ジープ車1台配置替）
9. 17	第1回 名瀬市防災会議開催、以降毎年開催
39. 4. 17	ジープ級消防車1台、日本損害保険協会寄贈 署へ配置（トヨタ・森田）（ジープ車1台配置替）
40. 8. 21	第1回 名瀬市自衛消防大会開催、以降毎年開催
41. 3. 15	消防専用無線局開設 以降増設
42. 1. 1	全国消防長会加入
1. 13	高所消防対策として、クレーン所有業者と協力協定締結
4. 1	消防職員3名増員（24名）条例定数改正24名（吏員20、その他4）

年 月 日	事 項
昭和43. 12. 27	救急車（B級）1台配置
44. 1. 1	救急業務正式開始
4. 1	消防職員3名増員（27名）条例定数改正27名（吏員20、その他7）
4. 16	署員による消防救助訓練開始
8. 1	消防相互応援及び救急業務応援協定を隣接三村と締結、以後大島郡内全町村と救急業務協定を締結する
45. 4. 1	04時02分頃、奄美大島近海地震発生、被害あり
2. 13	水槽付消防車1台配置（トヨタ・日造市原）（ジープ車1台配置替）
45. 4. 1	消防長事務取扱 仁礼 嗣男（市助役）就任 消防署長 有川 清達 就任（本部次長兼務） 条例定数改正30名（吏員23、その他7）消防職員4名採用 消防長 真鍋 松男 就任
8. 1	市長部局より1名派遣出向（30名）
12. 4	電話自動化、火災救急専用119番設置
46. 1. 12	第1回 名瀬市防災総合訓練実施
4. 1	消防本部1係増設（警防救急係）条例定数改正35名（吏員28、その他7）
47. 4. 1	消防職員3名増員（33名）
10. 25	天皇・皇后両陛下下行幸啓、特別消防警備配置～27日まで
48. 2. 24	救急車（3B型）1台、（日本自動車工業会より寄贈）署へ配置
4. 1	消防職員1名採用
9. 18	指揮車（トヨタカローラ）1台（南海ガス、吉田商事より寄贈）署へ配置
9. 18	消防庁舎落成式（小浜町27番5号）移転
49. 4. 1	消防職員3名増員（35名）条例定数改正40名（吏員32、その他8）
7. 31	ジープ級消防車1台（日本損害保険協会より寄贈）署へ配置 （ジープ車1台配置替）（トヨタ・吉谷）
11. 12	消防高所救助応援協定を市内クレーン車所有者と締結 （救急専用ゴンドラ製作）
50. 3. 10	名瀬ヘリポート開港（奄美群島救急組合事業）
3. 11	救急車（2B型）1台、（日本赤十字社より寄贈）署へ配置
7. 1	消防職員3名増員（37名）
51. 4. 1	消防長 有川 清達 就任 消防署長心得 山下 茂郎 就任（本部総務係長兼任）
52. 2. 1	署に臨時救助隊設置
4. 1	消防署長 山下 茂郎 就任（本部次長兼務） 消防職員2名増員（38名）条例定数改正40名（吏員29、その他11）
7. 25	単車（50・70cc）2台（大島石油より寄贈）署へ配置
8. 18	指揮車（トヨタカローラ）1台（南海ガス、吉田商事より寄贈）署へ配置
10. 11	屈折はしご付消防ポンプ自動車1台（21m級）署へ配置

年 月 日	事 項
昭和52. 10. 13	単車（90cc） 1 台（内山商事より寄贈）署へ配置
53. 4. 1	消防職員 8 名増員（46名）条例定数改正50名（吏員42、その他 8）
7. 31	防火水槽（地下式40m ³ ） 2 基配置 古見方（名瀬勝、前勝）
10. 25	消防広報車 1 台（日本消防協会より寄贈）署へ配置
12. 14	救急自動車 1 台（マルエーグループ「有村商事」より寄贈）署へ配置
54. 4. 1	消防長心得 山下 茂郎 就任（署長兼務） 条例定数改正48名 消防職員 2 名増員
8. 31	防火水槽（地下式40m ³ ） 芦花部、知名瀬、根瀬部、計 3 基設置
55. 4. 1	消防長 山下 茂郎 就任
7. 1	消防職員 2 名採用（実員46名）
7. 31	防火水槽（地下式40m ³ ） 有良、小湊、計 2 基設置
56. 4. 1	消防本部査察係（1 係）増設 条例定数50名
8. 8	防火水槽（地下式40m ³ ） 西仲勝、崎原、計 2 基設置
12. 18	消防指揮車 1 台（吉田商事グループより寄贈）署へ配置
12. 21	化学消防自動車（IV型）配置
57. 1. 28	救急自動車 1 台（日本損害協会より寄贈）署へ配置
3. 1	消防職員 2 名採用（実員48名）
3. 3	優良消防団として消防庁長官表彰（竿頭授）
4. 1	次長兼署長 竹田 史郎 就任
5. 2	旅館、ホテル等に初の適合表示マーク交付（3 対象物）
8. 17	防火水槽（地下式40m ³ ） 西田、朝仁、計 2 基設置
58. 3. 1	消防職員 1 名採用（実員49名）
8. 15	防火水槽（地下式40m ³ ） 小宿里、伊津部勝、計 2 基設置
9. 13	消防ポンプ自動車 B D - I 型配置
59. 4. 1	次長 竹田 史郎 就任 署長 肥後 康彦 就任
9.	防火水槽（地下式40m ³ ） 井根町（6 日）、春日町（19 日）、計 2 基設置
60. 1. 18	救急自動車 1 台（日本損害保険協会より寄贈）署へ配置
3. 3	消防連絡車 1 台（奄美大島危険物安全協会）署へ配置
4. 8	仮設消防訓練塔設置
8.	防火水槽（40m ³ ） 金久町（10 日）、安勝町（15 日）、計 2 基設置
61. 7. 31	防火水槽（40m ³ ） 矢之脇町、久里町、石橋町、計 3 基設置
62. 7. 24	防火水槽（40m ³ ） 幸町、佐大熊町、計 2 基設置
12. 16	救助工作車 II 型配置（日野 ウインチ、クレーン付き）
63. 3. 30	消防司令車 1 台（吉田商事グループより寄贈）署へ配置
4. 1	消防長 竹田 史郎 就任 次長 明 良保 就任（市から出向）
8. 15	防火水槽（地下式40m ³ ） 伊津部町、計 1 基設置
12. 19	消防ポンプ自動車 B D - I 型（トヨタ）配置
平成元. 1.	大島地区消防組合設立についての議決

年 月 日	事 項
平成元. 1.	名瀬市議会、喜界町議会、大和村議会、笠利町議会
2.	大島地区消防組合設立についての議決
	瀬戸内町議会、宇検村議会、住用村議会、龍郷町議会
	大島地区消防組合派遣職員採用試験公告（8市町村合同）
3.	大島地区消防組合議会、全員協議会及び仮議会開催
	27条例案、その他2議案一般会計予算案可決
3.31	名瀬市消防本部（署）閉庁式
4. 1	大島地区消防組合発足記念式典（1市4町3村）
	初代管理者 名瀬市長 豊 永光 就任
	初代消防長 竹田 史郎 就任 初代次長 明 良保 就任
	消防職員54名採用（条例定数120名、実員118名）
	第40期初任科研修派遣35名
	平成元年第1回大島地区消防組合議会定例会
7. 1	平成元年第1回大島地区消防組合議会臨時会
7.	大島地区消防組合庁舎建設関係工事発注（29件）
10.	業務開始
12. 9	平成元年第2回大島地区消防組合議会定例会
2. 1. 1	消防長 明 良保 就任 署長 前田 純利 就任
1.10	喜界消防分署落成式
1.11	瀬戸内消防分署落成式
2. 1	救急告示病院認定（県立大島病院・奄美中央病院）
2. 8	消防ポンプ自動車配置
	笠利消防分署（水一Ⅱ型）、喜界消防分署（水一Ⅱ型）各1台
2.20	龍郷消防分駐所（BD－Ⅰ型）1台
2.27	管理者 名瀬市長 成田 廣男 就任
3.12	平成2年第1回大島地区消防組合議会定例会
3.13	九州電気通信監理局無線検査
3.27	自治省消防庁消防組合業務調査
4. 1	大島地区消防組合通信指令室運用開始式典
4.10	消防職員6名採用 実員118名
	消防訓練塔竣工（地上5階建て、鉄筋コンクリート造）
5.26	大島地区消防組合発足1周年記念式典
8.	管内分署、分駐所へ指揮車配置 計7台
10. 1	大島地区消防組合業務開始1周年
12. 4	平成2年第2回大島地区消防組合議会定例会
12.19	救急自動車配置 名瀬署、加計呂麻分駐所 各1台 計2台
3. 3. 4	平成3年第1回大島地区消防組合議会定例会
3.20	瀬戸内消防分署、加計呂麻分駐所業務開始 3月26日 落成式

年 月 日	事 項
平成 3. 4. 1	次長 前田 純利 就任 署長 雪田 晃久 就任 消防職員 2 名採用 実員120名
6. 15	名瀬市常設消防35周年記念行事
12. 3	平成 3 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 5	独居老人緊急システム運用開始式典
4. 2. 19	平成 4 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	消防長 前田 純利 就任 次長兼署長 雪田 晃久 就任 条例定数125名 消防職員 5 名採用 消防本部一室、二係増設（通信指令室、財政係、救急係）
12. 9	平成 4 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
5. 3. 3	平成 5 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数129名 消防職員 4 名採用 県防災行政無線設備運用開始
8. 4	平成 5 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
12. 7	平成 5 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
6. 2. 20	管理者 名瀬市長 成田 廣男 就任
3. 3	平成 6 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数133名 消防職員 4 名採用 消防本部二係増設（救急係を第一救急係、第二救急係、危険物係） 消防長 明 良保 就任 次長兼総務課長 雪田 晃久 就任 署長 中原 英志 就任
4. 1	防災行政無線設備運用開始 名瀬市、龍郷町
6. 27	司令車 1 台（奄美大島危険物安全協会より寄贈）署へ配置
9. 6	鹿児島県市町村共済組合 健康優良所表彰
9. 8	平成 6 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
10. 2	救急自動車配置 本署 1 台
11. 15	はしご付消防ポンプ自動車（30m級） 配置 名瀬消防署
11. 20	管理者 名瀬市長 平田 隆義 就任
7. 1. 17	阪神・淡路大震災発生 5:46 震度 7 M7.3 死者6,434人 行方不明者 3 人
3. 2	平成 7 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 17	阪神・淡路地震現地視察（名瀬市合同 3 名派遣）
4. 1	消防職員 3 名採用（名瀬消防署） 条例定数133名 実員132名
6. 19	県下消防本部勤務体制視察 （大隅肝属、川内、祁答院地区消防組合・鹿児島市消防局） 3 名派遣
8. 16	平成 7 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
12. 2	救急自動車配置 喜界・笠利消防分署 各 1 台 計 2 台
12. 5	平成 7 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会

年 月 日	事 項
平成 7. 12. 20	はしご付消防ポンプ自動車（15m級）配置 瀬戸内消防分署
8. 3. 1	平成 8 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	消防長 中原 英志 就任 本部付参事 亀山 博明 就任 次長兼署長 雪田 晃久 就任 消防職員 1 名採用（名瀬消防署） 実員133名
6. 1	運営負担金関係業務視察 （阿久根地区消防組合・熊毛地区消防組合） 3 名派遣
9. 10	平成 8 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
10. 1	消防職員委員会発足
11. 1	救急自動車配置 瀬戸内消防分署、大和・住用消防分駐所 各 1 台 計 3 台
11. 17	救急自動車配置 龍郷・宇検消防分駐所 各 1 台 計 2 台
9. 2. 25	救急普及啓発広報車寄贈配置 財団法人日本宝くじ協会
2. 28	平成 9 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	消防長 亀山 博明 就任 条例定数改正136名 運営負担金・負担方法改正 宇検・大和・住用消防分駐所 各 1 名増員 計 3 名 消防職員 2 名採用（名瀬消防署） 実員136名
11. 27	平成 9 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
10. 2. 17	指揮車 8 台配置（名瀬消防署、各消防分署、各消防分駐所）
2. 26	平成10年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数改正137名 実員137名 龍郷消防分駐所 1 名増員 消防職員 2 名採用（瀬戸内消防分署 1 名、龍郷消防分駐所 1 名） 署長 藤江 正廣 就任
5. 12	大島地区消防組合発足10周年記念式典並びに祝賀会
12. 4	平成10年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
11. 3. 1	平成11年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 8	救急自動車配置 名瀬消防署 1 台
4. 1	消防長 久野 茂隆 就任 条例定数改正139名 実員139名 消防職員 3 名採用（名瀬消防署 1 名、瀬戸内消防分署 2 名） 瀬戸内消防分署 救急艇（おおとり）配置 19トン 30ノット 12名乗り
7. 14	平成11年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
7. 28	消防本部 指揮車配置
11. 26	瀬戸内消防分署 消防ポンプ自動車（CD-1）配置

年 月 日	事 項
平成11. 12. 6	平成11年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 14	名瀬消防署 水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）配置
12. 2. 21	消防本部 コンピューター2000年対応 地図検索装置及びOA機器更新
2. 29	平成12年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	消防署長 川畑 賀嗣 就任 消防職員 2 名採用（名瀬消防署 2 名） 実員139名
6. 22	平成12年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
6. 30	奄美空港消防分駐所の増設を協議 1 消防本部、1 消防署、3 消防分署、6 消防分駐所 定数実員143名
7. 1	奄美空港消防出張所業務開始 大型化学消防自動車 2 台（空港所管） （職員 4 名、空港管理事務所臨時職員 4 名の 8 名体制）
11. 30	平成12年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 20	加計呂麻消防分駐所（救急自動車配置）
13. 2. 28	平成13年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 29	名瀬消防署（救助工作車Ⅱ型配置） 総排気量7,960cc 重量9,210kg クレーン（2.93t） ウィンチ（5t） その他救助資機材標準装備
4. 1	消防長 雪田 晃久 就任 次長兼署長 川畑 賀嗣 就任 消防職員 2 名採用（名瀬消防署 1 名、瀬戸内消防分署 1 名） 実員143名
12. 4	平成13年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 25	全職員防火衣更新配備
14. 2. 28	平成14年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 8	名瀬消防署 救急自動車配置 瀬戸内消防分署 救急自動車配置
3. 28	消防本部 マイクロ多重無線設備更新及び付帯工事 （2GHz帯から7.5GHz帯に移行）
4. 1	次長 川畑 賀嗣 就任 消防署長 林 康雄 就任 消防職員 3 名採用（名瀬消防署 1 名、瀬戸内・喜界消防分署各 1 名）
12. 5	平成14年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
15. 3. 6	平成15年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 27	名瀬消防署車庫（ロッカー室、トレーニング室付）新築
4. 1	消防長 川畑 賀嗣 就任 次長兼署長 林 康雄 就任 消防職員 1 名採用（名瀬消防署 1 名） 実員143名
12. 5	平成15年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 25	名瀬消防署 消防ポンプ自動車（CDⅠ型）配置
16. 3. 5	平成16年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 25	喜界消防分署 救急自動車配置

年 月 日	事 項
平成16. 4. 1	緊急消防援助隊登録消防隊 1 隊 消防職員 2 名採用（名瀬消防署、瀬戸内消防分署各 1 名）実員143名
7. 20	瀬戸内消防分署 車庫増築工事
11. 19	平成16年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
17. 3. 8	平成17年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	消防長 林 康雄 就任 次長兼総務課長 奥 一仁 就任 署長兼警防課長 原田 俊光 就任 消防職員 2 名採用（名瀬消防署 2 名） 実員143名
18. 3. 20	市町村合併に伴い奄美市誕生（1 市 3 町 2 村）
3. 28	名瀬消防署 高規格救急自動車配置 笠利消防分署 救急自動車配置
4. 1	署長 原田 俊光 就任 消防職員 2 名採用（瀬戸内・喜界消防分署各 1 名）
6. 16	平成18年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
10. 29	奄美大島危険物安全協会発足50周年記念式典
11. 6	平成18年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
19. 3. 16	平成19年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 25	高機能消防指令センター導入
3. 28	笠利・喜界消防分署 水槽車（水Ⅱ型）配置 龍郷・宇検消防分駐所 高規格救急自動車配置 大和・住用消防分駐所 救急自動車配置
4. 1	次長 奥 一仁 就任 消防職員 4 名採用（名瀬消防署 3 名、龍郷消防分駐所 1 名）実員142名
11. 15	平成19年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
11. 20	消防隊員の適正な人員配置についての協議会 （構成市町村長 職員増等の協議）
20. 3. 19	平成20年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 26	瀬戸内消防分署 高規格救急自動車配置
4. 1	消防長 奥 一仁 就任 次長兼署長 原田 俊光 就任 龍郷消防分駐所を消防分署に昇格 条例定数改正154名 実員150名 消防職員 7 名採用（名瀬消防署 2 名、瀬戸内消防分署 1 名、龍郷消防分署 2 名、宇検消防分駐所 2 名）
8. 12	平成20年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
11. 17	平成20年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 9	住用消防分駐所 司令車配置
21. 2. 18	名瀬消防署 はしご付消防自動車（30m級）配置
3. 13	平成21年第 1 回大島地区消防組合議会定例会

年 月 日	事 項
平成21. 4. 1	次長 原田 俊光 就任 署長兼通信指令室長 杜 好樹 就任 消防職員 6 名採用（名瀬消防署 2 名、瀬戸内消防分署 1 名、大和消防分駐所 3 名） 実員153名 消防職員 1 名、役場から人事交流派遣（大和消防分駐所）
5. 1	奄美市名瀬佐大熊へリポート運用開始
8. 1	消防長 原田 俊光 就任
11. 26	平成21年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 1	管理者 朝山 毅 就任
22. 3. 15	平成22年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数改正156名 実員153名 消防職員 4 名採用（名瀬消防署 2 名、瀬戸内・龍郷消防分署各 1 名） 通信指令室を廃止し新たに通信指令課を設置
10. 20	奄美豪雨発生 1 時間最大131mmの猛烈な雨 1 日雨量708mm（住用町） 死者 3 名 全壊17棟 半壊548棟 床上床下892棟
11. 29	平成22年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
23. 3. 1	笠利消防分署 高規格救急車配置
3. 11	東日本大震災発生 14:46 震度 7 M9 観測史上最大 津波遡上高38.9m 内陸15kmに及ぶ 死者15,884人 不明者2,633人 計18,517人 （消防職員27名 消防団254名 うち公務中198名）
3. 15	平成23年第 1 回大島地区消防組合議会定例会 災害復旧費（住用・大和消防分駐所外）専決承認
3. 16	緊急援助隊費（総務費）専決処分 緊急消防援助隊派遣の第 2 次要請なし
23. 4. 1	条例定数156名 実員152名 消防職員 4 名採用（瀬戸内消防分署 2 名、喜界消防分署 1 名、大和消防分駐所 1 名） 次長 杜 好樹 就任 署長 松元 安男 就任
9. 25	瀬戸内消防分署 屈折はしご付消防ポンプ自動車20m級配置 奄美北部豪雨発生 死者 1 名 全壊 5 棟 半壊122棟 床下床上590棟
10. 1	消防職員 1 名採用（龍郷消防分署） 実員152名
10. 11	平成23年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
24. 3. 15	笠利消防分署 司令車配置 平成24年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数156名 実員154名 消防職員 8 名採用（名瀬消防署 5 名、瀬戸内消防分署 2 名、宇検消防分駐所 1 名） 次長 吉田 鐵芳 就任
7. 27	平成24年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会

年 月 日	事 項
平成24. 11. 2	平成24年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 1	喜界消防分署 高規格救急車配置
12. 28	名瀬消防署 資機材搬送車配置
25. 1. 30	名瀬消防署 化学消防自動車Ⅱ型配置
2. 1	名瀬消防署 司令車 1 号配置
2. 22	平成25年第 1 回大島地区消防組合議会定例会 条例定数改正157名（宇検消防分駐所 1 名増員）
4. 1	条例定数157名 実員154名 消防職員 7 名採用（名瀬消防署 1 名、瀬戸内消防分署 2 名、笠利消防分署 1 名、喜界消防分署 1 名、大和消防分駐所 1 名、宇検消防分駐所 1 名） 消防長 吉田 鐵芳 就任 次長兼通信指令課長 小松 和行 就任 署長 手島 孝嗣 就任 加計呂麻消防分駐所 小型ポンプ積載型車両配置（町から無償貸付）
5. 25	平成25年度鹿児島県総合防災訓練
～26	於：奄美市（名瀬港長浜みなと公園及び周辺地域）
6. 14	平成25年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会 大島地区消防組合消防救急無線デジタル化整備工事請負契約締結
11. 1	平成25年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
26. 2. 28	平成26年第 1 回大島地区消防組合議会定例会 条例定数改正158名（瀬戸内消防分署 1 名増員）
3. 15	住用消防分駐所 住用総合支所の一部に移転
4. 1	条例定数158名 実員157名 消防職員 8 名採用（名瀬消防署 3 名、瀬戸内消防分署 2 名、喜界消防分署 2 名、宇検消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、瀬戸内消防分署人事交流（各 1 名） 署長 師玉 当洋 就任
7. 14	平成26年第 1 回大島地区消防組合臨時議会
11. 7	平成26年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 25	消防本部 瀬戸内消防分署管内119番受理開始
27. 1. 20	名瀬消防署 高規格救急自動車贈呈式（本部庁庭・町田弘子氏寄贈）
1. 28	名瀬消防署 水槽付消防ポンプ自動車（水一Ⅱ型）配置
2. 27	平成27年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 10	消防本部 喜界消防分署管内119番受理開始
3. 16	瀬戸内消防分署 司令車更新
4. 1	条例定数158名 実員156名 消防職員 5 名採用（名瀬消防署 3 名、笠利・瀬戸内消防分署各 1 名） 名瀬消防署、宇検消防分駐所人事交流（各 1 名） 消防長 小松 和行 就任 次長 川畑 洋一 就任

年 月 日	事 項
平成27. 4. 1	大島地区消防組合管内119番一括受信開始
11. 6	平成27年第2回大島地区消防組合議会定例会
28. 2. 26	平成28年第1回大島地区消防組合議会定例会
3. 1	大島地区消防組合消防救急デジタル無線完成
3. 2	大島地区消防組合消防救急デジタル無線運用開始式
3. 16	喜界消防分署 司令車更新
4. 1	大島地区消防組合消防救急デジタル無線運用開始 瀬戸内消防分署 加計呂麻消防分駐所 高規格救急自動車配置 条例定数158名 実員158名 消防職員8名採用（名瀬消防署3名、瀬戸内消防分署1名、笠利消防分署1名、龍郷消防分署1名、住用消防分駐所1名、大和消防分駐所1名） 名瀬消防署、大和消防分駐所人事交流（各1名） 次長兼名瀬消防署長 川畑 洋一 就任
4. 14	熊本地震発生 前震21:26 震度7 M6.5
～16	本震16日1:25 震度7 M7.3 ほかに震度6強2回、震度6弱を3回記録 死者273人 行方不明者0名
4. 19	熊本地震発生に伴う緊急消防援助隊派遣要請を受け緊急消防援助隊鹿児島県大隊第3次派遣隊へ5名を派遣（名瀬消防署3名、瀬戸内消防分署1名、宇検消防分駐所1名）
4. 20	熊本県消防学校着 御船町、美里町、熊本市にて巡回パトロール 南阿蘇村へ移動 同村河陽高野台地区にて行方不明者搜索活動
4. 25	活動終了 27日帰着
11. 4	平成28年第2回大島地区消防組合議会定例会
29. 2. 27	平成29年第1回大島地区消防組合議会定例会 名瀬消防署 救助工作車配置
3. 17	龍郷消防分署 高規格救急車配置
4. 1	条例定数158名 実員157名 消防職員3名採用（喜界・笠利消防分署各1名、住用消防分駐所1名） 名瀬消防署、喜界消防分署人事交流（各1名） 名瀬消防署長 林 孝一 就任 鹿児島県消防学校派遣（要田 健士）
6. 26	(有)サト商会より無人航空機（ドローン）寄贈
10. 20	大島地区消防組合ホームページ開設
11. 1	平成29年第2回大島地区消防組合議会定例会
30. 2. 21	宇検消防分駐所 高規格救急自動車配置
2. 26	平成30年第1回大島地区消防組合議会定例会
3. 22	住用消防分駐所 高規格救急自動車配置
3. 30	大島地区消防組合ネットワーク環境事業運用開始 （名瀬消防署、笠利消防分署、住用消防分駐所）

年 月 日	事 項
平成30. 4. 1	条例定数158名 実員156名 消防職員 7 名採用（名瀬消防署 1 名、住用消防分駐所 1 名、瀬戸内消防分署 2 名、喜界消防分署 1 名、龍郷消防分署 1 名、大和消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、龍郷消防分署人事交流（各 1 名） 消防長 川畑 洋一 就任 次長兼名瀬消防署長 永田 隆樹 就任
6. 1	119番通報等による多言語電話通訳業務委託運用開始
7. 10	龍郷消防分署 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）配置
7. 17	平成30年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
7. 31	笠利消防分署 水上オートバイ一式（トレーラー含む）配置
	奄美市消防団機能別水上オートバイ小隊と合同運用開始
11. 16	平成30年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
31. 2. 26	平成31年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
	名瀬消防署 消防ポンプ自動車（CD-1）配置
3. 19	龍郷消防分署 機材車配置
3. 22	龍郷消防分署 司令車配置
4. 1	条例定数158名 実員157名 消防職員 7 名採用（名瀬消防署 3 名、笠利消防分署 1 名、住用消防分駐所 1 名、喜界消防分署 1 名、宇検消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、瀬戸内消防分署人事交流（各 1 名） 消防長 野崎 浩敏 就任 次長 永田 隆樹 就任 名瀬消防署長 山下 松夫 就任
令和元. 7. 19	令和元年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
8. 19	緊急消防援助隊用エアートント一式購入
11. 12	令和元年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
2. 2. 28	令和 2 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 1	NET119 通報システム導入
3. 6	高規格救急自動車（緊急消防援助隊用）購入
4. 1	条例定数158名 実員158名 消防職員 4 名採用（笠利消防分署 1 名、瀬戸内消防分署 1 名、喜界消防分署 1 名、龍郷消防分署 1 名） 名瀬消防署、宇検消防分駐所人事交流（各 1 名） 次長兼庁舎建設推進監 永田 隆樹 就任 名瀬消防署長 圓 博志 就任 総務課庁舎建設推進室を増設 瀬戸内消防分署 救急患者搬送艇おとり配置 瀬戸内消防分署 消防ポンプ自動車配置

年 月 日	事 項
令和 2. 8. 26	名瀬消防署 指揮車配置（才納壽二氏寄贈）
8. 28	名瀬消防署 水上オートバイ一式（トレーラー含む）配置
11. 11	令和 2 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 21	庁舎建設関連先進地視察第 1 回
3. 1. 22	笠利消防分署 高規格救急自動車配置
2. 25	龍郷消防分署 水槽付消防ポンプ自動車配置
2. 26	令和 3 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
4. 1	条例定数改正161名 実員161名 消防職員 8 名採用（名瀬消防署 3 名、笠利消防分署 1 名、喜界消防分署 1 名、大和消防分駐所 3 名）※女性消防職員 1 名を初採用 名瀬消防署、瀬戸内消防分署人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、龍郷消防分署人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、大和消防分駐所人事交流（各 1 名） 消防長 永田 隆樹 就任 次長兼庁舎建設推進監 荒田 省三 就任
4. 19	庁舎建設関連先進地視察第 2 回
6. 23	大和消防分駐所 高規格救急自動車配置
7. 15	令和 3 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
11. 5	令和 3 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 1	管理者 安田 壮平 就任
4. 2. 25	令和 4 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 10	瀬戸内消防分署 高規格救急自動車配置
3. 14	笠利消防分署 水槽付消防ポンプ自動車配置
4. 1	条例定数161名 実員160名 消防職員 5 名採用（名瀬消防署 2 名、瀬戸内消防分署 1 名、喜界消防分署 1 名、宇検消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、宇検消防分駐所人事交流（各 1 名） 警防課情報管理係を増設 奄美空港消防出張所を奄美市空港管理事務所へ移管
8. 16	令和 4 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
11. 4	令和 4 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
5. 2. 24	令和 5 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 9	名瀬消防署 高規格救急自動車配置（才納壽二氏寄贈）
4. 1	条例定数161名 実員161名 消防職員 4 名採用（名瀬消防署 3 名、瀬戸内消防分署 1 名） 名瀬消防署、龍郷消防分署人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、大和消防分駐所人事交流（各 1 名） 総務課庶務係を廃止し、新たに総務係・職員係を設置

年 月 日	事 項
令和 5. 4. 1	財政課を増設 消防長 荒田 省三 就任 次長兼名瀬消防署長 伊集院 正 就任
8. 18	令和 5 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
11. 13	令和 5 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
令和 6. 2. 28	令和 6 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
令和 6. 4. 1	条例定数162名 実員161名 消防職員 6 名採用（名瀬消防署 3 名、瀬戸内消防分署 1 名、宇検消防分駐所 1 名、大和消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、瀬戸内消防分署、宇検消防分駐所人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、喜界消防分署人事交流（各 1 名） 消防長 松崎 幸一郎 就任 次長兼総務課長 屋島 寿郎 就任 名瀬消防署長 泊 智仁 就任
11. 7	令和 6 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
12. 17	瀬戸内消防分署 水槽付き消防ポンプ自動車配置
令和 7. 2. 20	令和 7 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
令和 7. 4. 1	条例定数162名 実員159名 消防職員 4 名採用（名瀬消防署 2 名、笠利消防分署 1 名、瀬戸内消防分署 1 名、） 名瀬消防署、瀬戸内消防分署、宇検消防分駐所人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、大和消防分駐所人事交流（各 1 名） 名瀬消防署、喜界消防分署人事交流（各 1 名） 消防長 屋島 寿郎 就任 次長兼総務課長 吉 英和 就任
8. 4	令和 7 年第 1 回大島地区消防組合議会臨時会
11. 7	令和 7 年第 2 回大島地区消防組合議会定例会
令和 8. 2. 24	令和 8 年第 1 回大島地区消防組合議会定例会
3. 31	名瀬消防署 はしご付消防自動車配置
令和 8. 4. 1	条例定数162名 実員160名 消防職員 8 名採用（名瀬消防署 2 名、瀬戸内消防分署 2 名、喜界消防分署 1 名、龍郷消防分署 2 名、宇検消防分駐所 1 名） 名瀬消防署、大和消防分駐所人事交流（各 1 名）